

## 2011 年度前期担当講義科目シラバス

東京経済大学現代法学部教授 藤原 修

### 「平和学 a」

#### 【授業表題】

日本の平和問題—歴史的な視座から

#### 【学習内容】

日本の近現代史の中における戦争と平和の位置づけ、日本の対外政策の特徴、戦争責任・和解をめぐる問題、日米安保体制、沖縄米軍基地問題、広島・長崎の原爆被災など、日本における平和問題を多面的に扱う。その際、とくに歴史的な理解の重要性に着目する。また、適宜、時事問題を取り上げたり、視聴覚教材を利用したりする。

#### 【到達目標】

日本近現代史における戦争と平和をめぐる主要な争点についての基本的な知識・理解を得ること。これを通じて、今日の日本と国際社会との関わりにおけるあるべき姿について、普遍的な説得力のある自分なりの考えを持つことができるようになること。

#### 【準備学習】

とくに必要はないが、指定された教科書を読むことで、授業内容についての理解は容易になるであろう。なにより大切なことは、毎回の授業に真剣にのぞむこと。

#### 【授業計画】

1. 序論：平和学とは何か
2. 近代日本における戦争と平和
3. 戦争の記憶
4. 戦争責任と戦後和解
5. 広島・長崎の原爆被災
6. 日米安保体制の形成
7. 沖縄基地問題

#### 【教科書】

内海愛子・山脇啓造『歴史の壁を超えて』法律文化社

ほかに、適宜、プリントを配布する。

#### 【参考文献】

藤原修「ヒバクシャの世紀」『岩波講座アジア・太平洋戦争 第8巻 20世紀の中のアジア・太平洋戦争』